

1 主題設定の理由

今日，社会の様々な分野で情報化が著しく進み，情報化に対応した教育が必要となってきた。情報教育の目標にある，情報活用能力を育成するには，指導者が問題解決する学習過程の中に，情報を主体的に活用する活動を計画的，意図的に設けることが必要であり，単元構想が重要であると考えた。

2 研究の目的

児童が総合的な学習の時間において問題解決していく中で，情報活用の実践力が育成される単元構想の方法を探ることを目的とする。

3 研究の内容と結果

(1) 情報活用の実践力の単元構想への位置づけ

情報活用の実践力の具体化

児童の実態，発達段階を考慮した指導目標を作成することで，情報活用の実践力を具体化した。具体化には，情報教育の目標リストを利用した。情報活用の実践力を分類した「課題解決における主体的な情報活用」については，【問題の発見と計画】【情報の収集】【整理・分析・判断】【発信・伝達】の4つのプロセスに分かれている。問題解決的な学習の過程を，【つかむ】【調べる】【まとめる】【広める・深める】と4つの段階からなるととらえ，4つのプロセスと関連づけて考えた。

そして，児童の実態を考慮し，目標リストの総括的な目標・下位目標を参考にしながら，指導目標に具体化し，評価規準を作成した。

情報活用の実践力の評価

情報活用の実践力を評価規準に対するルーブリック（評価指標）を作成し，評価した。ルーブリックにより児童は，情報活用の実践力をどの程度達成できたかを，具体的に知ることができる。また，教師が同じルーブリックを使用して，児童の自己評価力を評価することができる。

各学習段階で，児童用ルーブリックを作成し，評価した。

(2) 単元構想に必要な内容と手順

単元構想に必要な内容と手順を，文献などを例に次のように考えた。

単元を構想する準備段階

(ア) 実態を把握（児童・学校・地域）する

(イ) 育てたい子ども像を描く

(ウ) メディア環境を把握する

単元の構想

(ア) 単元名（活動のテーマ）を設定する

(イ) 目標を設定する（総合的な学習）

(ウ) 児童の実態を把握する

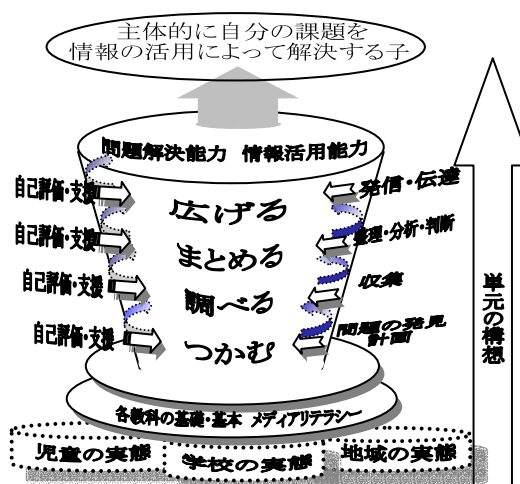
(イ) 情報活用の実践力の指導目標及び評価規準を検討する

(オ) 課題を想定し活動を構想する

(カ) 活動の具体的な支援を考える

(キ) 評価方法を検討する

(ウ)～(カ)は，それぞれを関連させながら考えていく。



4 結論と今後の課題

児童の実態と学年の発達段階を考慮して，情報活用の実践力の評価規準を学習段階ごとに作成するとともに，テーマを想定しながら活動を構想し，問題解決する各学習段階の支援を考えることが，情報活用の実践力を育成するうえで有効であることがわかった。今後，情報活用能力の他の要素を育成する方法についても実践を通して探っていきたい。